

○事業所名	インクルー多賀教室			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		～	2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、補助の仕方や応用のポイント等学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	運動研修に参加することで、補助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	職員間の雰囲気良く、子どもの対応について相談・共有している。日々の療育や支援内容についても話し合いを行い、子どもに合わせた適正な配置・支援が行われている。	当日の振り返りを行っている。話しやすい雰囲気を作っている。	対応の仕方について、遠慮なく伝えられる。それぞれの専門性をもっと活かして教材を作成する時間が十分に取れる必要がある。
3	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。	運動と学習等の活動スペースを分けて個別の課題等に取り組んでいる。	職員間で定期的に、利用児の様子や現状の意見交換・情報共有のミーティングを重ねながら、支援の内容の向上に繋がるよう努めている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	乗車スペースとされている駐車場が少なく、他事業所の車両も多い為、場合によっては出発時に隣の事業所と重なるときがあり、時間が遅くなってしまう事もある。	駐車証を確保して、子どもたちが安全に乗り降りできるスペースとお迎えに来た保護者や面談に来た方用に駐車場を確保する必要がある。	駐車場の確保、隣事業所との連携・協力を仰ぐ
2	長期休み等、家庭から個別の課題に時間に習字や絵の具などを使った課題をやってほしいと要望があるが、本児のやる気の問題や作業スペース・支援員の確保の難しさ、他児との兼ね合いがあり、取り組むのに困難である。	保護者のニーズにどの程度お応えできるか、相談しながら進めていく必要があり、習字や絵の具など個別対応が必要な職員配置やスペースの確保が必要。	保護者との話し合いにより、出来る日にちを相談する。本人のやる気が出るように尽力するが、無理強いできないこともお伝えする。
3	運動スペースから、静的スペースにボール等流れてしまうことが多く、パーテーションを置いても倒れるなどの危険性もある。	いろいろな方法を試していたものの、職員がボールが流れないようにできる時には大丈夫だが、個別対応やその他すべてできることは難しい	カーテン(網)などの設置のお願い、マットの向きを変えてボールの向きを変え、なるべく静的スペースにボールが行かないような配慮

事業所における自己評価総括表_児童発達支援

○事業所名	インクルー多賀教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、補助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	運動研修に参加することで、補助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。また、個別課題の時間は児発と放デイの利用児を分けて活動している。	個別課題の時間配分は、放デイの利用児より短く設定し、様子を見ながら楽しく学べるように工夫している。	個別課題は個々の発達や理解力に合わせた内容を充実させる。
3	近隣に駅や公園があり、電車を見たり、遊具遊びなどを楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午前中の療育時間の確保と、午後の部の療育時間の長いとの意見もある。	提供時間の開始が遅く、保育園の給食まで送迎をする際には十分な療育時間が確保できない。午後の部は放課後デイと同じ時間になっているため、帰りが遅くなってしまう。	近隣の教室に協力を仰いだり、保護者の迎えの協力をいただいたりしながら、児童に合った無理のない療育を考えていく必要がある。
2	乗車スペースとされている駐車場が少なく、他事業所の車両も多い為、場合によっては出発時に隣の事業所と重なる時があり、時間が遅くなってしまう事もある。	駐車証を確保して、子どもたちが安全に乗り降りできるスペースとお迎えに来た保護者や面談に来た方用に駐車場を確保する必要がある。	駐車場の確保、隣事業所との連携・協力を仰ぐ
3			

事業所における自己評価総括表_保育所等訪問支援

○事業所名	インクルー多賀教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日	～	2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○訪問先施設評価実施期間			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	0	(回答数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5年以上の保育士・児童指導員が多くいるため、専門的な観点で児童の対応・療育が出来る。保育所・学校の勤務経験が長いので、学校や園での困りごとに寄り添いながらも、療育について伝えることが出来る指導員が多い。	専門的な視点から、訪問先に情報交換や支援をすることが出来る	研修と経験を重ね、訪問先や保護者の意見を取り入れ、関係作りに尽力していく。
2	長年の経験から、安心して相談や情報共有ができる環境があり、保護者や訪問先の意向を尊重できる職員が多い。	定期的な職員研修があり、実施後の報告を定着させる事で今後の支援技術や専門性の向上に繋がるよう意識していく。	保護者、訪問先からの意見や評価をいただき、今後の支援内容に反映させていく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校や園で周知が十分でないため、事業に関する理解をしていただけののが難しい。	他自治体での取り組みや教育委員会などにもご理解をいただけるように、保育所等訪問について理解をしてもらえるように、相談員さんや学校・園に伝えています。	相談員さんにご理解をいただき、保護者のニーズを学校や園にも伝えていけるようにしていく。
2			
3			